

はじめに

平田 今日では地震予知をめぐるミニワークショップを開催したいと思います。地震予知については、予知できる、できないをはじめ、さまざまな議論があり、素人にはなかなか分かりづらい面があります。そこで、まず地震予知についてどのような学問的理論があるのかを明らかにし、最終的にどう判断すべきかを考えていきたいと思います。

それを世の中にどう伝えるかについては、また別の観点からの判断がありますが、今日の参加者は総研大関係者であり、研究者の立場からの視点を重視しておきたいと考えています。なお、このミニワークショップは神沼先生にコーディネートをお願いしましたので、司会もお願いしたいと思います。

神沼 総研大の中で数少ない地震・火山関係の専門家ということで、共同研究に加わっており、今日は、その立場から司会をさせていただきたいと思います。昨年私は、地震予知の現状について話させていただきましたが、ここでは、より突っ込んだ状況を知り、総研大の研究会のメンバーに考える材料を提供することに主眼をおきたいと思っています。したがって地震予知ができる、できないを議論する場ではない、と理解しております。

そこで、溝上先生、島村先生のお二人には、地震予知の現状をお話いただく予定です。なかでも、溝上先生は、地震予知を推進する立場の国の機関、通称、「東海地震予知判定会」の会長でもあらられるので、地震予知の現状、およびそれをふまえて科学者として社会との関わりをどう考えるかという視点にも触れていただきたいと思います。一方、島村先生は、地震予知はできないという立場の代表であり、その観点からお話いただきたいと思います。